会　　議　　録（案）

会議の名称	第５回小金井市産業振興プラン策定委員会
事　務　局	市民部経済課産業振興係
開催日時	平成２７年１２月２１日（月）午後３時～午後５時
開催場所	小金井市商工会館３階　小金井市市民会館　萌え木ホール　Ａ会議室
出　席　者 （１０名）	委員長　福田　委員 副委員長　正木　委員 阿久津　委員 日野　委員 益田　委員 藤本　委員 長島　委員 鴨下（洋）委員 今井　委員
欠　席　者	石黒委員、高杉委員、鴨下（敏）委員
傍聴の可否	可　・　一部不可　・　不可
傍聴者数	１人
傍聴不可等の理由等	なし
会議次第	１．委員長挨拶 ２．資料確認 ３．議事 （１）新プランの推進体制について （２）新プラン（案）について ４．その他
会議結果	決定事項なし。

発言内容・ 発言者名 （主な発言要旨等）	発言内容 **議事１．新プランの推進体制について** **◎福田委員長**　推進事業の推進体制について、理解していただきやすいか、市民の目線からどうか、そういうことを含めて意見を聞きたい。 **◎鴨下（洋）委員**　観光協会の役員をやっており、観光協会の今後の中間支援組織に対する取り組みをどうすれよいか考え動いているが、各事業の情報受発信のサポート、これにつきると考えている。市内でどんなイベント行われているか一元的に情報を管理している場所がない。できるだけ、観光協会の方で情報の収集、受発信に努めたい。 **◎日野委員**　前回の産業振興プランでは、中間支援組織が黄金井の里の方でやっていた。それが今度小金井市観光協会に役割が変わるということだが、具体的に何が違うのか、いきさつがどうなのかが見えてこない。 **◎事務局**　いきさつについては記載されていないので、簡単に説明したい。黄金井の里と中間支援組織では、実施する内容の力点が違っている。今まで黄金井の里は、産業振興プランに位置づけられた具体的な事業を自ら行う組織で、情報受発信やマッチングについてあまり重きを置いていなかった。将来像に位置づけのある市民力の活用という観点からすると、市民の活動のつなぎ役としての機能を高めていかないといけない。この具体的な事業実施から、つなぎ役の役割にまわるという変更が一つ。 また、黄金井の里は商工会の傘下であるが、商工会は法的な位置付けのある、主に会員向けのサービスを行う組織である。中間支援組織は、もっと幅広く、商工業者以外にもつなぎ合わせることが求められる。 当初、独立した組織を設立することを考えていたが、人的、予算的面から課題があったため、中間支援組織が行う役割と親和性の高い観光協会に中間支援組織の役割を担っていただくこととした。 なお、観光協会は任意団体だが、近々一般社団法人化を考えている。 **◎日野委員**　黄金井の里は、新しい推進体制図には載っていないのだ

	が。 **◎事務局**　組織としては、いわゆる発展的解消という形でなくなるが、機能としては市、商工会、観光協会で分担することになるため、担っていた仕事がなくなるわけではない。 **◎日野委員**　せっかく名前があるので、名前を残せればと思うが、経緯を知っておくとわかりやすいと思う。 **◎事務局**　経緯について記載したいと思う。 **◎福田委員長**　発展的解消というお話があったが、そのあたりも含めて黄金井の里はどうなるのかということを記載が必要だと思う。 **◎長島委員**　中間支援組織というと、自由度があって新しいことを考えて自ら行動するみたいなところがあるといいかなと思い、自分なりの理想像を持っているが、観光協会になったとたん、それが薄れるような気がしてならない。もう一つ、収入の面がある。中間支援組織は、情報発信とマッチングだけでなく、結果的に丸抱えでやるということも想定される。その部分のキャッシュアウトは市の方が支援して、全体の運営をなんらかの形で守っていくという理解でよいのか。 **◎事務局**　一つ目の懸念については、観光協会が新たな体制を整える中で新たな取り組みを行うものなので、新たな形で進めて行くことが可能だと思う。収入については、長島委員のおっしゃる通り、ほぼ丸抱えになってしまう。 **◎藤本委員**　補足すると、現在、黄金井の里の体制はあるが、中間支援ということで新しい形になっていく中で市の関わりとしても、予算配分なので確かなことではないが、職員についても新たに市からも派遣して、市内の中を動いてもらい、団体と団体を結んでいっていただく形で考えているところではある。 **◎福田委員長**　収入面、人の問題は、昔、中心市街地活性化法でも課題がその２つに集約された。本来の商工会の仕事を兼務するという形になるので、職員の仕事量が多かった。タウンマネージャーを新たに雇用して調整力のある人、企画力のある人を公募する形で来てもらうという方法もあり、そのあたりがカギになってくる。あるいは組織の体制そのものも今は一般社団法人化するという話もあったが、観光協会が今回シナリオにあがっており、自治体等の中では、まちづくり会社という形の中で株式会社化したり、第三セクターという形

	のものを立ち上げたりするなど、いろんな形があり、それは各自治体のこれまでの経緯や、やりやすい体制の中で行えばいいのであって、特にこれでなければならないということもない。 これまで黄金井の里があったが、今からして思えば実験的な形で走っていた。しかしながら、課題、制約等もあった。 観光協会という新しい担い手も浮上してきたというところで、中間支援組織という名称がなかなかわかりづらいというのもあるが、先ほどからお話ししたように２６ページにあるように各主体をつないでいく、そして各種事業を実施し、実現していくために必要な調整的な役割、あるいはそこが主となって担っていくというのがあるかもしれない。 担い手としての活動の難しさがあるというのは共通の認識として持っていただければと思う。ただ心配なのは、第三者の目というのが、そういった意味での定期的な報告であるとか、修正であるとか、あるいは具体的な活動、その中で新たに課題が出てきたとき、それに対するチェック体制の担い手が必要ではないかと感じている。 **◎長島委員**　そういうのはこの図の中に入れたほうがよいのではないか。逆に推進体制のところに観光協会がやるといれる必要があるのか。中間支援組織が必要だということをここで決めてそれを誰かが担うかということだけでいいのではと思ったら、前のプランで黄金井の里と書いてある。これを受けて今後どうするか話しながら意図的に入れざるを得ないかと思った時には、今言ったようなチェックとか報告とかの体制を整えないと、なあなあになってしまう可能性がある。 **◎福田委員長**　冷静に見れば、推進体制を誰が担うかも大事だが、その活動がなされているのか、あるいはいろいろなことを行う上において、第三者のチェック体制があった方がやりやすいのではないかと思う。そのあたり表現、内容をどうするか、長島委員からのご意見もあったので、総合的にご検討いただきたい。 **◎事務局**　全面的にできるかわからないが、観光協会と協議し、こういう意見があったという話をさせていただきたい。 **◎福田委員長**　年に１度評価する仕組みがあれば、全体の評価についてもある意味手間が省けやりやすくなるということがある。お考えいただきたい。

	◎正木副委員長　中間支援をしていく側の人材育成カギになる。人材育成を念頭に置いた組織づくりを是非していただきたい。 **議事２．新プラン（案）について** **◎事務局**　新プラン（案）について、素案の流れ、骨子がこれでよいのか、記載する内容に過不足はないか、記載されている内容を変えるべきところはないかを議論していただきたい。 **◎事務局**　事前に委員の皆様に素案をお配りして意見をいただいている。長島委員、ＲＥＳＡＳの特許データを入れてほしいというのは、どういった趣旨か。 **◎長島委員**　ＲＥＳＡＳで小金井市の特許データをとると、特許の多数をＮＩＣＴ（情報通信研究機構）がとっている。こういう街はあまりない。他だと大学が多い。小金井市は、知の集積があることも入れた方がよいのではないか。 **◎事務局**　近隣との比較で小金井にはこういう特性があるということで、そういう形をいれさせていただきたい。 **◎長島委員**　7 ページから、何度かお話している「教育特性の高いまち」というところで、確かに塾は多いが、そういう意味ではなくここに書いてある通り大学、学校と取引をしている、あるいは連携が考えられる企業の育成、誘致をぜひやりたいと考えている。 小金井の 10 年後、20 年後を考えた時、何かすごい勢いで発展しているとは考えにくい。そう考えた時、今すぐにはできないが、何らかの形で大学に連携しながら産業を呼び起こしていって、10 年後には、そのような環境が整い、小金井市の強みとしたい。 **◎福田委員長**　地域資源のところにもそれらしき形で大学との関係は多少添えてはいるので、そういう認識のもとに産業振興を進めるとその魅力が引力となって、魅力を感じる企業に集まっていただきたい。 先ほど特許の話があったが、住民特許を使う、あるいはビジネスプランを学生に考えさせるというのもある。普段の生活からすると特許や知財は市民からは遠い存在である。産業振興という点から重要なカギとなる。 **◎日野委員**　16 ページの必要な取り組みで 1 から 11 まで通し番号がふってあるが、取り組みの方向性で 10 番の項目が抜けている。

	◎事務局　既存産業の付加価値を高めるところに入れる形である。 **◎日野委員**　9 ページの阿波踊り大会の来場者が増えているだけではざっくばらん過ぎる。12 ページの来場者の推移を入れてはどうか。 **◎福田委員長**　文章的なことでやや修正、追記が必要なところがいくつかある。事務局の方で調整した上でわかりやすい表現になるようメール等でやりとりしたい。 どうしてもこの点について気になる、不足している等の意見はないか？ **◎益田委員**　13 ページの地域資源のところで小金井市内の地図があって商店街とか施設とか載っていているが、商店街らしい商店街はこの中でどのくらいあるのかという感覚がある。 自分が商売をやっているところは商店街として認められているが、ほとんどが住宅街である。空きテナントがあれば新たなチャンレジもできるが、現状ではチャレンジすらできる場所すらない。商売していたがシャッターをしめてそのまま住んでいる人に誰かに貸して欲しいというと、住んでいるからと言われる。15 ページの産業振興に向けた今後の取り組みの中で 11 と 12 の「弱みの強化による脅威の回避」の⑫「商業者の世代交代など機会を捉えた業種・業態の転換による経済活動の活発化」と文章では書いてあるが、具体的に場所もないのにどうやってやるのか。絵に描いた餅に見えてしまう。例えば住んでしまった人に等価交換として違う住まいを用意するとか、商店街として機能させるような具体的な政策を考えるとかやってくれないことには駐車場でしか商売できなくなる。もう少し具体的な言葉を入れてもらいたい。 **◎今井委員**　既存事業の商店街モデル地区の取組を益田委員の商店街で行ってみたはどうか。 **◎事務局**　補足ではあるが、商店街モデル地区の取組とは、他の商店店街でも参考となる、試験的な取組を支援するものである。例えば、過去の実績では、商店街を車両通行止めにしてイベントを実施する取組があった。 **◎益田委員**　イベントはうちの商店街でもできなくはないが、結局住んでいる人に商店街として認識してもらえるようなまちづくり、商店街だけでやるのは限界があると思う。

	◎事務局　住んでいる方のご意向もあるので、どこまでできるかわからないが、そういうことはあるかもしれない。 **◎日野委員**　イベントだと単発で終わってしまう。住んでいる方も多いので、継続的に商店街を復活させるという長期的なスパンとしてできるような取り組みを市で守って応援して支えていかないといけないと思う。 **◎益田委員**　商店街を復活させようとする取り組みが感じられない。 **◎日野委員**　単発のイベントならできるが、単発ならそれならそれで終わってしまうので、そこからどうやったら商店街が復活するかということを目指すことが目的だと思う。 **◎今井委員**　各商店街が全部賑やかになるような考えがあるのであれば、駅前に集積すると、駄目になるところが当然出てくる。 地区計画をかける場合、窓口はまちづくり推進課であるが、商店街では地区計画をかけたく、そのための研究会を開きたい。その時は、経済課とまちづくり推進課が連携していただけないか。 **◎事務局**　おそらくできると思う。 **◎今井委員**　素案に目を通すにあたって、どうしても商店街という言葉がどこに入っているのか見てしまい、少なく感じた。キーワードとして、もう少し入れていただきたい。 **◎福田委員長**　商店街の存在意義というのは、改めて見直されつつあるが、商店街を 20 年 30 年前と同じような形にすべて盛り上げるというのは、商店街が再生していくシナリオとしてはなかなか難しい。構造的に小金井だけの話ではなく、日本全体でそういう部分がある。ただ、その一方で買い物が難しいという人たちもいる。やはり身近なところでというのもあるし、地域を守ったりコミュニティーの核となったりという機能を担っている部分もあるので、商店街振興というものを視点からなくすということはまずありえない。 悩ましい部分は先ほど益田委員の発言の 15 ページの⑫「商業者の世代交代など機会を捉えた業種・業態の転換による経済活動の活発化」というところだが、表現としてはこういう書き方になるのかという気がする。基本的には、自助努力というのが先にありきというのはまず大前提である。なかなか商店街の振興が全体のプランの中で少ないというイメージがあるかもしれないが、商店街が地域の商業にと

	ってのの重要性は認識しつつ、すべての商店街が再生するかというと構造的に難しいが、なんらかの形で活性化を志す方には支援が必要という側面がこのプランの中に生かすことが大事だと思う。 **◎正木副委員長**　素案は過不足なく固められていると思う。これを元にどう実践していくか、イメージをいただきたいと思う。 また、小金井の力としてどこを目指すべきなのか。人あってのまちだと思うので、これから、このまちに住んだり、このまちに関わる人たちが、自分もこうした形で関わっているという、主体性を意識させるような仕掛けづくりをしないといけない。 単純に商店街が潤ってないから活性化しないといけない、高齢化社会だから何かやろうといった、断片的に発想するのではなく、必ず何かのセクションに自分が関わっているというモチベーションが出てこないと、今一歩踏み出せないと思われる。 具体的には教育産業で求められているのは学校教育だが、もう一つは地域教育である。地域にしかできない教育が企業からも求められている。特許の話しにもあったが、本学は教育学部なので特許というのは皆無である。つまり特許を必要としないコンテンツを作れるという意味では逆に新しい実験を行い、かつて中央線沿線がサブカルチャーな街として栄えた歴史がある中で、それと同時に教育文化みたいな部分、文化的なものを支援していくようなまちづくりも一方で必要ではないか。 ＩＴ特区との絡め方もある。例えば、この地域で先端の学校モデルを行うと仮定すれば、もっとＩＴ企業など介在して小金井に行かないと最先端の教育システムが見えないというような精神的なことを考えていかないとならない。右へ習えでは画一的なコンテンツを作ってしまうこととなり、突破口にはならない。 **◎長島委員**　学会に関連して、東京学芸大学でデジタル図書館に関する催しが行われたが、大手企業が多数出席していた。これだけの企業を集めることができる大学だと感じた。 このような場を活用して地元企業と連携を仕掛けたり、参加者は帰りに必ず小金井で食事することから、これらを取り込む販促サービスをしたらよい。 **◎正木副委員長**　地域に還元する気持ちがない限りは、産学連携でも、大学と大手企業が連携しているだけで地域性が一切なくてもできてしまう。大事なのは、そこでの教育産業と地域の産業の還元化を

	図ることである。還元化する必然性が教育のファンデーションの中にないと、結局従来の連携でしかないわけで、今おっしゃったような話がキーとなってくるのではないか。 **◎日野委員**　商店街のことで言うと、今回市長選があり、その時ばかり商店街がポスターでうまっている。商店街と言えば、人が通るイメージがあり、いろいろな政党がポスターを出しているが、活用の仕方が選挙の時だけだと寂しい気がする。 まろんとか、みなみちゃんとかのキャラクターも学生さんが考案したのだが、キャラクターを商店街で作ったりするのもまた面白い。ただ選挙の時などの一時の賑やかさではなく、固定化した愛されるキャラクターがあってもいい。 **◎正木副委員長**　そのようなリソースがもっと大学教育で活用されればよい。社会科の教科書の中の地域を学ぶ、地域性を学ぶのではなく、地域の中で小金井を楽しむような手引きも必要である。文科省が行っている教科書という位置づけではなく、生きた教材作りは、地域の方々が率先して情報を共有していかないといい関係にはならない。 今のキャラクターもそうだが、地域の中で物を作ったり考えたりすることが大切である。自分は大人のサークルを作ろうと思っている。研究とかラボとか大学人以外はあまり経験がないかもしれないが、みんなで研究するというスタンスのチームを作ることで、具体的な産業に結び付けたい。また、若い学生が関わることで自分の日々の活動が単純に大学に行って何か学んでいるのではなく、地域の方々と関わりながら実際に具体的な物をプロダクトしていくというのが本当の意味での大学の教育産業だと考えている。 **◎福田委員長**　学会の話があったが、小金井には大きな大学が３つほどあり、学会も季節がよい時にある。あまり小金井になじみのない方が全国からあるいは海外からも来られるのに受け皿がないのは寂しい。横浜は、観光コンベンションビューローがあり、市と商工会議所が一緒になった形で、パシフィコヨコハマがキーとなっている。ホテルとか宿泊関係や飲食などで地域を知ったり、地域の中の情報が必ずお土産の中に入っている。そういったものをうまくアピールして、集約化してある。 飲食関係は、これを機会に大学の先生方もこういう店があるから今度連れていこうということにもなるし、知りうる機会が作られれば、そ

	ういう形での発展が可能性として増えていく。そういうことが出来ていないので、新しいものよりも、今やれるものを見直してはと思う。先ほど特許の話があったが、企業を誘致するにはいい資源で、手前どもの大学で恐縮だが、理工学部に材料表面工学研究所というのがあり、メッキの技術で日本一の特許件数と収入があり、これに技術を移転するための企業から協賛金を得ている。だいだい 60 社から 100 社程度あり、技術移転のための研究員を出したり、企業との研究、ネットワークがあるので、そういったものの拠点が小金井市にできればよい。活動の拠点がなくても小金井市が特許を通じてネットワークを張り巡らせていくことが大切である。持っている資源はどんどん活かし、学会の飲食を含め、可能性はある。
提 出 資 料	○小金井市産業振興ビジョン（改定版素案） ○小金井市産業振興プラン事前意見 ○第４回会議録
そ　の　他	第６回策定委員会は２月 29 日（月）15 時より開催する。